

多田謡子

反権力人権基金

News

No.18 2024/06/10

発行・多田謡子反権力人権基金運営委員会

<https://tadayoko.net>

2023年12月16日

第35回受賞発表会を開催しました



多田謡子反権力人権基金は、2023年12月16日、東京・お茶の水の連合会館で第35回反権力人権賞受賞発表会を開催しました。発表会にはこれまで最高の100名が参加者して、受賞した方がたからの講演をうけました。

- ・水戸喜世子さん
(救援運動・反原発の闘い)
- ・ホームヘルパー国家賠償訴訟原告団
(介護労働者の権利・生活とケア労働の尊厳を守る闘い)
- ・金城実さん
(抵抗する彫刻家)

基金からは各受賞者に多田謡子の著作「わたしの

敵が見えてきた」と賞金30万円が贈られ、発表会終了後には恒例の記念パーティーが開催されて、参加して下さった皆さんと受賞者との交流を深めました。

ロシアによるウクライナ侵略から2年半、パレスチナではイスラエルによるガザ住民の虐殺が拡大して、東アジアでも際限のない軍備拡張競争が続いています。戦争のない世界を実現する道はますます困難になっていますが、多田謡子反権力人権基金は、人権と自由を守ろうとする世界中の人びと、平和に生きる権利を守ろうとする世界中の人びとと手を結び、これからも行動していきたいと思えます。

12月14日の第36回受賞発表会に、たくさんの皆さまが参加して下さることを呼びかけます。

多田基金は継続のためのカンパを呼びかけています。

第35回受賞発表会

2023年12月16日 連合会館（東京・お茶の水）

水戸喜世子さん

（救援運動・反原発の闘い）



水戸喜世子さんのお話は、敗戦後、憲法に出会い、天皇のためでなく自分の幸せのために生きていいのだ、男女は平等で日本はもう絶対に戦争をしないと教えられた喜びもつかの間、1950年の朝鮮戦争を契機に時代が逆転したこと、その中で闘いに目覚めていったところからはじまりました。60年安保闘争を水戸さんは夫の巖さんとともに闘います。「樺美智子さんが亡くなったのを知って、巖と二人日比谷公園で泣きながら6・15の夜を明かしました。東京で30万人が国会を取り囲み、全国では150万人。それでも安保は通りましたが岸は退陣しました」

日韓条約反対闘争の困難な時代をへて、ベトナム戦争反対の大きな闘いが起こります。1967年10月8日、佐藤首相の南ベトナム訪問実力阻止の闘いで山崎博昭さんが殺されます。原子力空母エンタープライズ佐世保寄港阻止闘争（68/1）、アメリカ軍のジェット燃料輸送を阻止する新宿米タン阻止闘争（68/10）へと闘いが拡大します。

「10・8は、佐藤が南ベトナムに行つて日本が戦争に加担することにノーという実力闘争でした。巖は血まみれで帰ってきて、たくさんのけが人が出て、全部病院に届けてきたと……。テレビは『学生は暴徒と化した』としか言わない。何のためにやったのか、新聞は一切書かない。そんななかで、知識人の署名を集めて発表しました。差し入れを持って、毎日警察署に通い、羽田空港周辺の30の病院を回つて、怪我人たちの支払いをして診断書を受け取りました。過剰防衛の証拠としたわけです」

救援運動は全国に広がり救援連絡センターの設立につながり、水戸喜世子さんは初代事務局長になります。原子物理学者だった夫の巖さんは東海原発反対運動の中心でしたが1986年二人の息子さんとともに北アルプス剣岳で帰らぬ人となりました。「世界のへんぴな山に行けば私も死ぬるだろうと行った中国で、御飯も1日2食、窓ガラスが全部割

れた学校で元気に学ぶ子供たちを見て救われました。私にはまだ何かできると思い里親になりました」「たくさんの原発訴訟にかかわり、福島こども被爆裁判は9年になります。こども裁判は、こどもを安全な環境で教育しろ、こどもに無用な被爆をさせた責任をとれという裁判です。行政が安全だという年間20ミリシーベルトはものすごい量です。原発で働く労働者でも年に1人か2人しか被爆しないような量。そこにこどもをほったらかしている」「嬉しかったのは、生存の権利と経済性を比較することは許されない、命こそ大切だとして大飯原発の運転差し止めを命じた樋口判決（2014）です」「原発は生半可なことでは止まらない。私たちは本当に本気にならないといけな。水戸巖と家族、支えてくれた皆さんと一緒にいただいた賞だと思います」というお話しに大きな拍手が沸きました。

ホームヘルパー国家賠償訴訟原告団

（介護労働者の権利・生活と

ケア労働の尊厳を守る闘い）

介護保険制度じたいが労働基準法を守れない制度だと国を訴えたホームヘルパー国賠訴訟原告団は、原告3人がそれぞれの思いを述べました。

【藤原るかさん】「32年間ホームヘルパーの仕事



続けてたくさん楽しいことを経験しましたが、どうしても解決したいことがありました。仕事を始めてすぐに、移動と待機

とキャンセルの問題はおかしいと思えました。労働時間であるべき移動の時間、待機の時間はほとんど賃金が支払われていません。直前のキャンセルでも賃金は支払われないため、とりわけ登録型のヘルパーは賃金が非常に不安定なうえに低賃金です。女の仕事だ、誰でもできると、国まで裁判で主張します」

「年収150万円、7万5千円の年金で暮らしている中での裁判ですが、いろいろな勉強ができました。ヘルパーの求人倍率は今15倍です。なかなかヘルパーさんは見つかりません。でも本当はケアこそが社会の柱になるべきです」

【佐藤昌子さん】「ヘルパーは人を支え生活を維持する重要な仕事なのに社会的地位は低くて深刻な人手



不足。このままでは在宅介護はなくなるという危機感から、介護保険制度そのものが内包する問題を明らかにしようと裁判を決意しました」

「広いエリアをカバーする私の事業所では、大手事業者が断る移動距離の長い利用者、痰吸引が必要、入院の可能性など、リスクのある利用者も引き受けています。朝8時に入るために6時に家を出るヘルパーもいます。移動費が考慮されないため経営を圧迫しています。所長はヘルパーを辞めさせないと、自分の賃金を100万円台に引き下げました」

「介護の質を問い、高齢化社会で人がどう生きるか、人の尊厳を問う裁判です。介護のありかたを決めるのは行政ではなく私たち自身でありたい」

【伊藤みどりさん】「労働時間がどんどん細切れにさ



れ、オムツ交換の回数も減らされて濡れたまま長時間放置されるようになってきた。そんなとき藤原るかさんから相談されました。ずっと女性の労働問題にか

かわって労働相談も何千件もやってきたので、国を訴えるなんて無謀だと言ったのですが、見事にのせられて佐藤さんも加わって、3人が出合っ成り立った裁判です」

「介護保険制度は皆さんと無縁じゃない。もう介護崩壊が起きていて、要介護認定されてもヘルパーさんが来てくれなくて、家族による介護殺人、介護虐待、親族同士のいがみ合いも起きています。国が責任を持たず民間企業を入れて生産性や効率性を持ち込んだのが間違いでした。税金と皆さんから集めた保険料で成り立っているのに、使えないって詐欺ですよね。これと闘っているのが私たちの裁判です」

介護の仕事が好き、ケアこそ社会の中心に据えるべきだという思いが伝わってくる3人の女性たちの訴えに大きな拍手がわきました。

金城実さん

(抵抗する彫刻家)

「一族一党が東京に住んでいまして、今日はおじさんが受賞したことにお礼を申し上げたいと来てくれました。みんな立って」と金城実さんが紹介すると、7人の若者が立ち上がりました。「素晴らしい賞をいただき、親戚一同嬉しく、とても誇りに思って参加しました」という青年のお礼に大きな拍手が湧き



ました。

沖縄戦が終結したとき、小学校一年生だった金城さんは、大学を受験するためにパスポートを持って上京するときは「わしら

沖縄の人間は日本人か？日本人ではないのか？」と怒りを覚えました。大学生になった当初は学生運動を潰してこいと言われて出かけていく体育会系の学生でした。しかし金城さんは、教師となって高校で教えていた大阪で沖縄出身者、朝鮮人、部落民への差別に直面し、沖縄の歴史を読むようになって考え方を変えていきます。

1986年に読谷村に移住し「チビチリガマ世代を結ぶ平和の像」を制作。2002年に沖縄で靖国訴訟が提起されると、父を靖国に合祀され関西靖国訴訟に加わっていた金城さんは沖縄靖国神社合祀取り消し裁判原告団長となり、2018年には「琉球遺骨返還請求訴訟」で京都大学を訴えています。「だんだん左に向かっていく私にとって、歴史的な話をこれからします」

金城さんが、笑顔でこう前置きして話したのは、1975年海洋博で沖縄を訪問した皇太子夫妻に、火炎瓶を投げつけた事件の被告たちとのかかわりでした。教師仲間たちからカンパを託された金城さんは被告4人に会いに行きます。

「刑務所に行くと、被告とどういう関係なのかを書く書類がある。俺は義兄弟と書いた。そうしたら刑務官も警察官もニタツと笑う訳や。それで会うことができた」

「第二次大戦では日の丸、君が代のために沖縄の悲劇が起こったと、あの時、ほとんどの沖縄県民が考えていた。警察官でもそうだったんだよ。皇太子に火炎瓶を投げたあの事件を、沖縄県民は日本政府に対する抵抗の姿として見ていたという話です」

「金城は赤軍だとかテロリストだとか宣伝されて権力に追いかけられたけど、生まれた島の人たちは新聞に載った私の写真を見て、太っているから元気に違いないと自慢して喜んでくれた」

「俺は2年間勉強したけど東京では大学に合格できなかった。失望して沖縄に帰ろうと思い、雨宿りの場所探して上野公園をうろうろしていてロダンの彫刻に出会った。もし大学に合格していたら、あのとき雨が降ってなかったら金城実さんは彫刻家にならなかったという話です。これで終わります」

心から楽しそうに自分の人生を語る金城実さんに大きな拍手が贈られました。

多田基金の詳しい情報はホームページでご覧いただけます。

<https://tadayoko.net>

第36回多田謡子反権力人権賞 候補者推薦のお願い

2024年6月
多田謡子反権力人権基金運営委員会

本年度も、下記要領で多田謡子反権力人権賞の候補者推薦を受け付けます。自薦、他薦は問いません。多数のご推薦をお待ちしています。(これまでの受賞者は当基金のホームページで閲覧できます。)

※多くの皆さまのご支援により、副賞賞金を30万円に増額することができました。※※

・賞の内容

多田謡子の著作「私の敵が見えてきた」および金30万円の贈呈

・選考基準

国家権力をはじめとしたあらゆる権力に対して闘い、自由と人権を擁護するために活動している個人または団体

・推薦方法

自薦、他薦とも可。候補者名と活動分野の簡単な紹介を付して、文書で下記住所に郵送、FAXまたはe-mailでお送りください。

・推薦締切

2024年8月31日
注！！ 締め切りが1ヶ月早くなりました。

・推薦受付先

〒105-0004
東京都港区新橋2-8-16
石田ビル5F 救援連絡センター気付
多田謡子反権力人権基金運営委員会
TEL 03-3591-1301
FAX 03-3591-3583
e-mail web@tadayoko.net

お問い合わせにはできるだけe-mailをご利用ください。なお、受賞者には受賞発表会での講演をお願いいたします。

12月14日(土)受賞発表会を開催します。

- 第36回多田謡子反権力人権賞受賞発表会
- 日時 12月14日(土) 午後2時～5時
- 場所 連合会館201号室
東京・御茶ノ水駅から徒歩5分
- 発表会后、同所で記念パーティーを行います。
- 発表会、パーティーとも参加費無料です。



基金継続のための寄付のお願い

郵便振替用紙を使った振込み

寄付と明記し、氏名、住所をお書き下さい
口座番号 00110-2-356484
口座名称 多田謡子反権力人権基金

金融機関の口座からの振込み

- ◎ 記号・番号を使った振込み
・記号 00110 ・番号 356484
- ◎ 店名(店番)を使った振込み
・銀行名 ゆうちょ銀行
・店名 〇一九店(ゼロイチキューウ)
・店番 019
・預金種目 当座
・口座番号 0356484
・タダヨウコハンケンリョクジンケンキキン
(金融機関からの振込ではお名前、ご住所がわかりません。
メールでお知らせいただければ領収証をお送りします)

多田謡子反権力人権基金 News

No. 18 2024年6月10日発行

編集・発行 多田謡子反権力人権基金運営委員会

〒105-0004 東京都港区新橋2-8-16 石田ビル5F 救援連絡センター気付
TEL 03-3591-1301 FAX 03-3591-3583 e-mail web@tadayoko.net